



基調講演では、大阪産業大学の波床正敏教授が、「四国への新幹線導入の意義と課題」と題し、「新幹線は、高速道路や空港とあわせ、必要な社会基盤であり、地域の発展には欠かせないものである」、「新幹線は地域が必要と言わなければ、その地域には永遠に整備されない」などと講演されました。



パネルディスカッションでは、関西圏からの時間短縮による経済効果や観光振興、地震などの大規模災害に対する防災の効果など、活発な議論がなされました。



会場ロビーにおいて、四国への新幹線の認識を深めていただくためにパネル展を実施しました。



シンポジウム参加が、鉄道の歴史の認識を深めるため、四国鉄道文化館を見学しました。

詳細は後日掲載します。